ひまわりの支援を考える

放課後等デイサービスひまわり　島田金谷校

領域	(ア)健康・生活	
ねらい	(a)健康状態の維持・改善 (b)生活のリズムや生活習慣の形成 (c)基本的生活スキルの獲得	
(a)健康状態の把握	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。	(直接的な支援) ・来校時(利用開始時)には手洗い、うがい、手指消毒、検温を行います。 ・活動時には、外出時(公園等)を含め、定期的に水分補給をするように促します。 ・寒暖に合わせて服装での体温調節を促します。 ・咳やくしゃみがみられる利用児へは、マスクを着用するよう声掛けをします。また、マスクが汚れた場合には、交換をするように促します。 (保護者や学校とのやり取り) ・学校や家庭へのお迎えの際に、学校や家庭での様子や健康状態(顔色・声色・身体の変化など)などを確認します。 また、引き継いだ利用児の様子は当日の校舎職員に共有させていただきます。 ・連絡帳を活用し、健康状態(検温等)や家庭での様子、薬の変更等を共有します。また、ひまわりでの様子をご家庭へお伝えします。 (来校時) ・来校時には、体調確認を行います。 ・利用児の平熱を検温表に記載し、検温時に比較できるようにしています。 ・来校時及び活動中は利用児の顔色や表情、様子の変化に気を配るようにしています。 ・来校時には、一人ひとり声掛けをし、聞き取りにて当日の体調を確認します。 ・来校時には、衛生面や衣服(汚れの有無、昨日と服が一緒ではないか)について、確認します。 ・着替えの際に外傷(けがやあざ、虫刺されなど)を確認します。 ・トイレ誘導時に排泄の確認を行います。 ・利用児の体調や様子で気になることがあれば、保護者へお伝えします。 ・活動中は利用児がけがをすることがないよう、職員による見守りを行います。
(b)健康の増進	健康な生活のリズムを身に付け、楽しんで食事ができるよう支援する。また、病気の予防や安全への配慮を行う。	(直接的な支援) ・体調が悪いときには自ら職員等へ伝えられるように指導・支援します。 (運動面) ・利用児の運動不足対策、ストレス発散のため、晴天時は屋外(公園等)へ行き、身体を動かすことができるよう支援します。 ・雨天が続く場合には室内でも身体を動かすことができるようダンスを取り入れています。 ・運動が苦手な利用児にも明るく楽しく声掛けをし、参加しやすくなるように配慮しています。 (食育面) ・安全で衛生的なおやつを提供しています。 ・食事の際は、「よく噛む」や「いい姿勢」で【楽しく食べる】よう声掛けをしています。 ・「みんなで食事をする楽しさ」を学べる時間(感じてもらえる機会)を設けています。 ・野菜を植え、収穫、調理まで行い食に興味を持てるような活動を取り入れています。また、野菜が苦手な利用児にも「自分たちで育てた野菜を食べる」という経験を積んでもらえるよう支援しています。 ・クッキング(調理体験)を取り入れ、作る・食べる楽しさを体験してもらう機会を設けています。 ・食の楽しみを知り、食べられるものの幅を広げていけるよう支援しています。 ・栄養バランスを考えた食事の選択(お弁当選び)ができるよう支援しています。 ・クッキング(調理体験)やテイクアウトの注文による昼食を提供し、様々な食べ物を知る、見る、食べる機会を設けることができるよう支援しています。また、必要に応じて提供形態(噛みやすさ等)を配慮できるよう努めています。
(c)リハビリテーションの実施	日常生活や社会生活が営めるよう、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。	・来校時や、車の出発・到着時にはあいさつができるよう促します。 ・校舎のルールを決め、来校したら先ず宿題を終わらせるなど、すべきことから終わらせる習慣がつくよう支援しています。 ・日々の宿題が習慣化するよう支援しています。 ・通学に苦手感がある利用児には、気持ちに寄り添って支援しています。 ・日々の生活の中で不安を抱えている利用児へ声掛けやフォローを行います。 ・利用児に適した製作や難易度を提供し、楽しく手先の巧緻性が向上するよう支援しています。 ・病院受診の結果やリハビリ内容を保護者と情報共有します。
(d)基本的生活スキルの獲得	身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄など生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。	(衣服・身だしなみ) ・「身だしなみ」の概念を持つことができるような掲示や声掛けを行っています。 ・衣服の裾入れ動作が獲得できるように支援しています。 ・気温に合わせた上着の着脱ができるよう声掛けをしています。 ・着替えた服をたたみ、かばんへ入れることができるよう支援しています。 ・衣服が汚れたり汗をかいたりした場合に着替えができるよう声掛けをしています。 ・食事の際にはマナーや口周りの汚れに意識が向くよう支援しています。 (整理整頓) ・靴やランドセルなどは自ら所定の場所に置けるように支援しています。 ・持ち物の管理や整理整頓が習慣化できるよう声掛けをしています。 (排泄) ・トイレ内に、排泄動作、排泄後の身だしなみチェックのイラストを掲示し、適切な動作を視覚化しています。 ・排泄に不安のある利用児は、外出・帰宅前に声掛けをし、排泄の確認をしています。 ・女子利用児であれば、月経に関すること(ナプキンの付け方やなぜ生理がくるか等)を必要に応じて支援しています。 (その他) ・衛生面について、手が汚れたら洗う、床に食べ物などを落としたら拭くなど清潔を保つ習慣が身につくよう支援しています。 ・来校後の支度(連絡帳の提出や水筒を指定の場所へ置く等)が習慣化できるよう支援しています。
(e)構造化など生活環境を整える	生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	(予定) ・校舎全体の当日のスケジュールを視覚化するようにしています。 ・個別に当日のスケジュールを視覚化するようにしています。 ・送りの利用児については帰りの配車が分かるよう視覚化しています。 (空間) ・目的ごと使用する部屋(学習室、活動室など)を分けています。 ・学習室の机を壁向きにし、集中して取り組めるような環境を整えています。

		・片付ける箱には、おもちゃの種類ごとイラストや文字を付け、分かりやすくしています。 ・製作活動での製作物を視覚化し、見通しを持って参加できるようにしています。 （その他） ・利用児と意思疎通を図る手段の１つとして、絵カードや写真を活用しています。
領域	（イ）運動・感覚	
ねらい	（a）姿勢と運動・動作の向上 （b）姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 （c）保有する感覚の総合的な活用	
（a）姿勢と運動・動作の基本的技能の向上	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。	（運動・体幹強化） ・公園での外遊びでは、身体や関節を動かすことで身体機能の維持・向上を図っています。 ・筋力維持、強化のため、アスレチック、バランス遊びなどの活動を取り入れています。 ・宿題や食事など、姿勢を意識できるような声掛けを行っています。 ・雨天時など屋外での活動が制限される場合には、動画を見ながらダンスや体操など全身運動を取り入れています。 （姿勢） ・学習時や食事、車内では、正しい姿勢を意識し、保持できるよう促しています。
（b）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。	・歩行が不安定な利用児には階段の上り下りの際に手すりを使用するよう促しています。また、必要に応じて手を取り体を支えています。
（c）身体の移動能力の向上	自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援をする。	・歩行が不安定な利用児へは、段差や階段がある時には事前に声掛けをして注意を促しています。 ・日々の活動に散歩を多く取り入れ、自分で歩いて移動する力を向上させています。（例：近くの公園まで歩く、避難訓練で近くの避難所まで歩く等）
（d）保有する感覚の活用	保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊びなどを通して支援する。	（触覚） ・夏には水遊びなど自然と触れ合う活動を取り入れています。 ・様々な刺激が得られるようなおもちゃや素材（折り紙やボールなど）を遊びに取り入れています。 （視覚、聴覚） ・楽器や歌う活動を取り入れています。 ・定期的に読み聞かせの活動を行っており、視覚や聴覚を使い表現を楽しめるようにしています。 ・音楽を聴きながらダンスや体操をしています。お手本の動きを見て真似しながら体を動かしています。
（e）感覚の補助及び代行手段の活用	保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器など各種の補助機器を活用できるよう支援する。	・ひまわりでの活動を通じて、視力・聴力の観察をしています。 ・メガネ、補聴器など、保護者の協力のもと、必要に応じて活用しています。 ・補助機器を活用する場合には、使用頻度や使用方法を保護者に確認します。 ・イヤーマフを活用している利用児が、必要に応じて外すことができる環境づくりをしています。 ・普段眼鏡や補聴器を使用している利用児が、着用していなかった場合には声掛けにて支援します。
（f）感覚過敏への対応	感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、特に感覚の過敏さや認知の偏りなどの個々の特性に配慮する。	（触覚） ・体に触れられることが苦手な利用児に対しては、職員間で特性を共有把握し、むやみに触れたり、うっかり触れてしまうことのないよう、注意をしています。 （視覚） ・パーテーションを用意し、必要に応じて活用しています。 ・校舎内の表示を分かりやすくしています。 （聴覚） ・聴覚過敏な利用児には、必要に応じて、イヤーマフの利用を保護者へ相談します。 ・活動中や支援時の音量については、個に応じて調節をして支援します。 ・音に敏感な利用児がいる場合は、環境に配慮して静かな空間を設けるようにしています。 （その他） ・職員が、本人の苦手な感覚を用いて先に様子を見せ、不安を取り除いたうえで安心できるよう支援しています。 ・利用児の様子に応じて、個室の活用や周りの利用児への配慮の呼びかけを行っています
領域	（ウ）認知・行動	
ねらい	（a）認知や行動の発達 （b）空間・時間、数などの概念形成の習得 （c）対象や外部環境の認知を適切な行動に改善	
（a）感覚や認知の活用	視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。	・個に応じて、絵カードや写真を活用して支援しています。 ・製作の際は、見本を置く、作り方、手順をわかりやすくホワイトボードに記し、言葉で補いながら伝えています。 ・ボードにイラストを掲示したり、ジェスチャー等を交えたりし、分かりやすい説明をするよう心掛けています。 ・タイマーや表示を利用し、視覚や聴覚から行動に繋がるような支援をしています。 ・信号機を渡る際には、声掛け（聴覚）をしながら視覚でも確認するようにしています。 ・制作や外遊び散歩を行い、見たり（電車・バス・花）、聞いたり（風の音・電車・バス・車）、触れたり（遊具・花・葉っぱ）することで感覚を覚えてもらえるよう支援しています。 ・自然に触れる機会を増やし、五感を刺激する自然体験を提供しています。
（b）知覚から行動への認知過程の発達	環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。	・新規の利用児などには入室後の流れを可視化したものを見せ、自身の動きが分かるようにしています。また、現利用児には声掛け等をしながら行動に繋がっていくよう支援しています。 ・一連の行動を表示・説明をし、必要に応じた声掛け支援をしています。 ・ホワイトボードを活用しながら、当日の流れなどを確認しています。 ・一日の流れの見通しが持てる声掛けを行っています。 ・活動の切り替えの際など、事前告知をし、見通しが持てる声掛けを行っています。 ・時計を設置し、時間を意識できるようにしています。 ・利用児が触れてはいけない場所（開けてはいけないところ）はイラストをつけ、分かりやすいように工夫しています。 ・トイレには、一連の動作のイラストを表示しています。

(c)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。	・普段の生活の中で、天候を気にかけることができるよう、工夫しています。(晴れたら外遊び、雨だったら室内など) ・タイマーを使用することにより、時間の経過を視覚的に伝えられるようにしています。 ・歌、ダンスなどの活動を取り入れ、音の変化に合わせ声をだしたり体を動かしたりしています。 ・創作活動では、絵の具等使用する中で色の変化を楽しんでいます。
(d)数などの習得	数字・数詞対応課題、計数課題、数唱課題などの数概念の習得のための支援を行う。	・買い物体験をする前にお金の計算を練習しています。(商品を購入するためには何円と何円を合わせたら買えるのか) ・学校の宿題の見守り支援を行っています。 ・必要に応じて、九九表の提示をしている。 ・遊びの中で数を数える場面を多く取り入れています。 ・校舎内での生活の中で、日付を確認したり、活動や車の順序付けをしたりするなど、意識的に取り入れています。
(e)行動障害への対応	感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。	(全体支援) ・事前にスケジュールの確認をし、見通しを持ち安心して行動できるように支援しています。 ・具体的な声かけ・端的な指示を心掛けています。 ・利用児にとって分かりやすい言葉を用いて、その都度簡潔に伝えています。 ・絵カード、ジェスチャーを取り入れて支援しています。 (個別支援) ・子どもの特性によって予測できることは事前に対応を確認するようにしています。また気持ちがコントロールできるよう、深呼吸を促したり、気持ちを代弁したりするなどの支援を行っています。 ・他害行為については毅然とした態度で対応しています。また、別室で気持ちの安定を図り、利用児の思いの共有、原因について考え、それに合ったアプローチを行い、支援します。 ・何事にも事前に声掛けをして支援しています。無理強いはせず、利用児の意思を尊重しながら、問題行動が減るよう支援しています。 ・相手との適切な距離感について、日々の支援の中で伝えています。 ・不適切な行動が過ぎる場合には、安全を確保した上で、計画的静観を行うなど、個に応じた支援を行います。 ・問題が生じた際には、利用児に合わせた対応を行っています。 ・常に利用児の見守りをおこない、危険回避が出来るように支援しています。 ・他の利用児に危害を与えてしまう可能性がある場合には、距離を置くようにしています。 ・刺激になる物や人(信頼関係がまだ築けていない人)の配置について、配慮しています。 (環境の工夫) ・必要に応じて、部屋を移動したり、パーテーションを使用したりするなど、クールダウンできるように促しています。
領域	(エ)言語・コミュニケーション	
ねらい	(a)言語の形成・活用及び受容・表出 (b)コミュニケーションの基礎的能力の向上 (c)コミュニケーション手段の選択と活用	
(a)言語の形成と活用	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。	(声掛け) ・自発的に会話ができるように職員が声を掛けして促しています。 ・散歩時等は職員が利用児に意識的に話しかけるようにしています。 ・声掛けや復唱をして、言語(発語)に繋がるように支援します。 ・利用児自身が困った場面で、自ら助けを求められるように促します。 ・自らあいさつすることができるよう、声掛けをして促しています。 ・活動のなかで、「いつ」「だれと」など5W の質問を意識的に取り入れています。 ・体験、見聞きしたものを言葉として認識できるよう、職員から積極的に発声、声掛けを行い、児童の自発的な発声を促しています。 ・ゆっくりと丁寧に関わり、その日の出来事などを話すことで、言語習得を支援しています。 ・簡単な短い言葉で伝え、言語習得を支援しています。 (場の提供) ・自分の意見、発表の場を多く取り入れています。(誕生日インタビューなど) ・外出し、様々な体験ができる機会を取り入れています。 ・散歩など自然の中にあるものに対して説明する機会を設けています。
(b)受容言語と表出言語の支援	話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。	・自分の気持ちを相手に伝えられるように、職員が間に入り支援しています。 ・写真や絵カードなどを用いて活動内容等を提示し、利用児には指で意思を表せるよう工夫しています。 ・ ・誕生日会などにおいて、インタビュー形式で質問をする機会を設けています。 ・言葉が聞き取りにくい利用児に対しては時間をかけて接するようにしています
(c)人と相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	表情や身振りなどの非言語的コミュニュケーション手段などを用いて意思の伝達ができるよう支援する。	・相手と目線を合わせることで感情を伝えられるよう支援しています。 ・身振りや手話、マカトンサインなどを使い、コミュニケーションを図っています。 ・出来るだけ伝わりやすいようにより簡潔に簡単なジェスチャーを用いています。 ・成功体験を得られた時など嬉しい感情をその子どもに伝わりやすい方法に合わせて拍手したりすることで、共感できるようにしています。
(d)読み書き能力の獲得のための支援	発達障害の子どもなどの障害特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。	・利用児の希望に合わせたパソコン学習などの学習支援を繰り返し行っています。 ・絵本の読み聞かせを活動に取り入れています。 ・外出時などは現地の写真に平仮名で施設名を書いて読み上げるなど、自然と文字に親しむことができるよう支援しています。
(e)コミュニケーション機器の活用	各種の文字・記号、絵カード等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、意思伝達が円滑にできるよう支援する。	・絵カードや写真を使い、スケジュール(活動の流れ)を分かりやすく伝えています。 ・絵カードなどを壁面貼付し、活用しています。 ・ホワイトボードや顔写真を活用し、乗車時に座る位置などを知らせています。 ・絵カード、マークなど利用児それぞれに適したツールを用いています。 ・指示が通らないときには、個別で名前を呼んだり、肩を叩いたりするなど、こちらに注意が向くように配慮しています。

(f)文字言語、手話、動作によるサインの活用	手話を含む言語、文字の表示、音声、触覚、平易な表現などによる多様なコミュニケーション手段を活用できるよう支援する。	・マカトンサイン、指さしなど、利用児それぞれに適したツールを用いて、コミュニケーションを図っています。 ・「公園に行く」「室内で遊ぶ」など、指を出して選択してもらうなど、利用児が意思を伝えやすいよう支援しています。 ・複雑な言葉を避け、簡単で分かりやすい表現にするなど、利用児に伝える際に注意しています。 ・特定の活動時にはテーマソングを流すなど、利用児に活動の始まりが分かりやすいようにしています。
領域	(オ)人間関係・社会性	
ねらい	(a)他者とのかかわり(人間関係)の形成 (b)自己の理解と行動の調整 (c)仲間づくりと集団への参加	
(a)アタッチメント(愛着行動)の形成	人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。	・個々ではなく、集団活動を意識づけした行動を心掛けられるよう支援します。(公園では友達と遊ぶ等) ・利用児に対し、常に傾聴する姿勢で気持ちを受け止め、我々は味方であることを伝え、信頼関係を築いています。 ・利用児の話しを最後まで十分に聴き、利用児の気持ちを代弁し受容するよう努めています。 ・周囲の人(職員・児童)への伝え方を日々の活動のなかで支援します。 ・時には1対1の関わりを増やし信頼関係の形成を行っています。 ・良いことはたくさん褒め、良くないことはきちんと理由も付け加えて伝えています。 ・できたことを見逃さず、認めて評価することで信頼関係を築いています。 ・パニックになった時に受け止め、共感したうえで一緒に考えるようにしています。 ・利用児にとって好きな関わり方を見つけ、繰り返し関わりを持てるようにしています。 (環境) ・落ち着くことのできる環境を提供しています。 ・信頼関係を築き、利用児にとって、安心できる環境づくりを行っています。
(b)模倣行動の支援	小さな動き、大きな動き、口の動きなどを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。	・職員が声の大きさを変えることで、どのくらいの声の大きさが適切かを示しています。 ・利用児の動作・行動を真似することで人への気づきを促しています。 ・社会的ルールなど、事前に説明した上で、実践の場で職員がお手本となるようにしています。 ・いつもと違うシチュエーションや環境になった際は、まずは職員が見本、声掛けをして定着させています。 ・ラジオ体操やダンス、ゴミ拾いなどを通じて社会性を学ぶことができるよう支援しています。 ・音楽やダンスの活動を定期的に取り入れています。 ・職員が模範となる動作や行動を示し、明るく笑顔を見せるようにしています。 ・見本を見て製作に取り組むことができるように支援しています。 ・人との距離感を学んでいけるよう、ひまわりでの活動のなかで支援しています。 ・利用児にお手伝いをお願いし、模倣をする機会を取り入れています。
(c)一人遊びから共同遊びへの支援	周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から、役割分担を作ったり、ルールを持って遊ぶ協働遊びを通して、社会性の発達を支援する。	(個→集団) ・一人で遊んでいる利用児に職員が一緒に遊んでいいかを聞いたうえで、その後、集団遊びをしている利用児たちも一緒に遊ぶか促すなど共同遊びに繋がるよう支援しています。 ・利用児がやっている興味のある遊びを職員や他児が一緒に楽しみ、共同遊びに繋がるよう支援しています。 ・一人遊びや対職員との遊びが多い利用児には十分その時間も取りつつ、周囲にいる利用児と楽しそうに遊んでいる様子を見てもらえるように声かけしたり、タイミングをみて仲間に入れるように支援しています。 ・まず人の少ない環境に慣れてもらい、次に少人数から少しずつ集団活動へと移行していけるよう促しています。 ・魅力的な集団遊びを提案し、職員が仲立ちをして一緒に遊ぶことから始め、段階を経てゆくゆくは利用児同士で遊べるよう支援しています。(ドッジボール、鬼ごっこ、しっぽとりなど) ・個々ではなく、集団活動を意識づけした行動を心掛けるよう支援しています。(公園では友達と遊ぶ等) ・利用児からの声掛けで仲間に加わり、一緒に活動することができるよう促しています。 (役割・ルール) ・活動前の片づけを最後までやってもらい、「できたら褒める」ことを繰り返し行っています。 ・活動でゲームを行った際、順番を待つことができるよう支援しています。 ・活動の際、グループ分けをし、リーダーを任せる機会を設けています。 ・ゲーム、遊びの中での役割を利用児たちで決めることができるよう支援しています。(ごっこ遊び、鬼ごっこ) ・同学年だけでなく、他学年との関わりを通して社会性を築くことができるよう支援しています。 ・物の貸し借りでルールを学ぶことができるよう支援しています。 ・おやつの時に「いただきます」を利用児に言ってもらうようにしています。 ・率先して役割を担ってくれる利用児には、任せることで、責任感を持ってもらうようにしています。 ・
(d)自己の理解とコントロールのための支援	自分のできること、できないことなど自分の行動の特徴を理解し、自己肯定感を強める支援を行う。	(集団支援) ・自己選択、自己決定の場面をどの活動にも取り入れています。 ・できなかったことが活動や遊びを通してできるようになるよう支援しています。 ・勝ち負けのあるゲームなどをし、「負ける」という経験ができるよう活動に組み込み、勝って嬉しい気持ちや負けて悔しい気持ちに寄り添い、次に繋がるよう支援しています。 ・利用児の良い行動を他の利用児に伝える機会を設けるようにしています。 ・やってみようとチャレンジする体験を支援の中に取り入れています。 ・利用児それぞれの特性に合わせ、活動の中でできることを支援しています。 ・個々に合わせた活動内容を提供しています。公園であれば、利用児に合わせた遊具や場所選びを行っています。 ・利用児それぞれの特性に合わせ、活動の中で出来ることを支援しています。 (個別支援) ・完璧ではなくてもできたことを褒めるような支援を行っています。 ・人と比べず、その子の変化(昨日の自分と比べる)を褒めるような支援を行っています。 ・できたことはたくさん褒め、できなかったことはアドバイスしながら励ますことで、「次は方法を変えてチャレンジしてみよう」などと利用児が前向きに捉えられるような支援を心がけています。また、できないことは手伝い、自己肯定感を高められるよう支援しています。 ・気持ちや希望の表出を促し、自分の言葉で表出できた時は褒め、認めてあげることで自己肯定感を高められるような支援を行っています。難しいことへは、挑戦する利用児のフォローや、できたことを褒めて、次につながるような支援を行っています。 ・時には職員が失敗した姿を見せ、結果でなく経過を認め、褒めていくことで安心感を持てるようにしています。 ・自ら進んで手伝いをしてくれたとき、周りを見て行動をしてくれた時などは感謝を伝えながら褒めることで、自己肯定感を高められるようにしています。

(e)集団への参加への支援	集団に参加するための手順やルールを理解したり、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	(集団支援) ・朝の会(始めの会)では当日のスケジュールや活動内容、手順などを提示(視覚化)し、見通しを持って活動ができるようにしています。 ・子どもたちへの指示は短くわかりやすい言葉かけを意識して支援しています。 ・製作活動などでは、完成形を先に見せることで利用児の興味を引き、見通しを持たせられるようにしています。 ・活動前にルールや約束ごとを視覚化させながら伝え、その都度確認しながら進めるようにしています。 ・ひまわりでのルールや来校後の手順を経て活動に入ることができる流れ(環境)を整えている。活動から離れてしまった利用児に声をかけ、活動に戻れるように支援しています。 ・子どもたちが参加しやすい集団活動を考えたり、子どもたちからの意見を取り入れ、相談しながら、集団で遊べる機会を増やせるよう工夫しています。 ・体育センターでの活動を通して、集団でできるゲームや運動をしています。 ・職員などが楽しむ姿を見せ、子どもたちが好きなことを取り入れ集団活動に興味を持てるよう促しています。 ・利用児同士で会話をしながら集団活動に参加する時のルールを徐々に学んでいけるよう支援しています。 ・職員や利用児同士が誘い合って集団遊びに参加できるよう支援しています。 ・集団活動に参加できるよう、まずは職員と一緒に集団に入って遊び、他児らと関われるよう職員が仲立ちをしながら徐々に自信がつくところを目指して支援しています。 ・朝の会や誕生会など、みんなの前で発表する機会を設けています。 ・集団活動のなかで、順番を守れるよう支援しています。 (個別支援) ・ゲームルールが理解しにくい利用児には少人数でやったり職員と練習したりする機会を設けています。